

平成30年度
事業実績報告書

社会福祉法人 秋田県身体障害者福祉協会

目 次

	(頁)
<総 括>	1
○運営の実績	1
○事業の実績	6
<重点目標1> 秋田ワークセンター利用者の自立と社会参加の促進	6
<重点目標2> グループホームの運営	6
<重点目標3> 障害者の自立更生の環境づくりと社会参加の促進	6
<重点目標4> 市町村身体障害者協会の組織強化と活動の活性化	7
<重点目標5> サービス管理責任者等の人材育成事業の推進	7
<重点目標6> 身体障害者、知的障害者及び精神障害者を統合した事業の推進	8
○秋田ワークセンター運営・管理の実績	9
○秋田ワークセンター相談支援事業所運営・管理の実績	23
○谷内佐渡ホーム運営・管理の実績	25

平成30年度 事業実績報告書

<法 人 事 務 局 総 括>

運営の実績については、社会福祉法人として社会福祉事業にふさわしい事業を確実、効率的かつ適正に執行するため、正副会長会議を5回、評議員会を1回、理事会を4回、監査1回をそれぞれ開催した。また、評議員選任・解任委員会を開催して、新評議員3名を選任したほか、平成29年度に立ち上げをした負担金に関する検討委員会を第6回から8回までの3回開催し、昨年に引き続いて県協会に対する市町村協会からの負担金のあり方についての検討を行った。

事業の実績については、県の委託・共催事業を実施するにあたり、県と連携しながら、最少経費で最大の効果を挙げることを目標に取り組んだ結果、各事業とも年度当初の目標を達成することができた。

中でも、各種団体を通じて実施した地域生活支援事業では、情報提供や研修会等を実施することにより、コミュニケーション障害の克服に成果を挙げたほか、多数の受講者があるサービス管理責任者（児童発達支援管理責任者）研修会では、平成30年度も多くの人材の育成を図ることができた。

3障害を統合した心いきいき芸術・文化祭開催事業においては、数多くの力作を展示した福祉展や、出演者の個性あふれるパフォーマンスなどにより、来場した観客に感動を与え、障害者本人の生きがいや自信を創出するとともに、差別解消法に関連した講演会や体験コーナーを実施することによって、法の概要について県民に周知することができた。

○ 運 営 の 実 績

1 正副会長会議

- <第1回> ・5月30日（水）・県心身障害者総合福祉センター・出席理事 4名
・協議事項
- (1) 評議員選任・解任委員会に推薦する評議員候補者について
 - (2) 事務局長の任命（案）について
 - (3) 理事の補充選任（案）について
 - (4) 常務理事の選任（案）について
 - (5) 定款変更（案）について
 - (6) 平成29年度事業実績報告について
 - (7) 平成29年度収支決算及び監査結果について
 - (8) 社会福祉充実計画について
 - (9) 平成30年度第1回評議員会の招集について
 - (10) 市町村協会に対する県協会負担金に関するアンケートの実施について
 - (11) 市町村協会に対する第64回日本身体障害者福祉大会プログラム広告協賛団体の募集依頼について
 - (12) 第37回秋田県身体障害者福祉大会について

- (13) 平成30年度市町村身体障害者協会長・事務担当者会議について
- (14) 職員による協会の中期展望を検討する会からの報告について

<第2回> ・6月20日(水)・県心身障害者総合福祉センター・出席理事 4名
・協議事項

- (1) 第37回秋田県身体障害者福祉大会について(表彰審査委員会)
 - ①協会長表彰候補者の審査
 - ②代表受賞者の選出
 - ③スローガン・大会宣言(案)・大会決議(案)について
 - ④副会長の役割分担について

<第3回> ・9月19日(水)・県心身障害者総合福祉センター・出席理事 4名
・協議事項

- (1) 全国大会実行委員会の設置と委員長及び副委員長の選出について
- (2) 全国大会実施要綱(案)及び大会次第(案)について
- (3) 全国大会収入・支出予算書(案)について
- (4) 全国大会準備作業の日程(案)について
- (5) 全国大会会場のレイアウトについて
- (6) 全国大会及び歓迎レセプションでのアトラクションについて
- (7) 全国大会での土産品の販売について

・報告事項

- (1) 東北・北海道ブロック身体障害者団体連絡会所属団体からの分担金の入金状況について
- (2) 広告協賛依頼状況について

<第4回> ・1月10日(木)・県心身障害者総合福祉センター・出席理事 4名
・協議事項

- (1) 平成31年度第38回秋田県身体障害者福祉大会の開催について
- (2) 就労継続支援B型事業で実施している売店について

・報告事項

- (1) 第64回日本身体障害者福祉大会あきた大会プログラム広告の申込み状況について
- (2) 役員会等の開催日程について

<第5回> ・3月7日(木)・県心身障害者総合福祉センター・出席理事 4名
・理事会への提出議題について

- 議題 1 情報公開規程制定(案)について
- 議題 2 職員給与規程一部改正(案)について
- 議題 3 障害者支援施設秋田ワークセンター運営規程一部改正(案)

について

議題 4 秋田ワークセンター相談支援事業運営規程一部改正（案）について

議題 5 指定共同生活援助事業所コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム運営規程一部改正（案）について

議題 6 指定短期入所事業所コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム運営規程一部改正（案）について

議題 7 秋田ワークセンター苦情解決規程一部改正（案）について

議題 8 平成30年度資金収支補正予算（案）について

議題 9 平成31年度事業計画（案）について

議題10 平成31年度資金収支予算（案）について

・理事会への報告事項について

(1) 負担金検討委員会における検討結果について

(2) 大館市協会からの県協会入会申込みについて

(3) 平成30年度業務執行状況について

(4) 全国大会準備作業進捗状況について

(5) 役員会等の開催日程について

2 評議員会

<第1回> ・6月27日（水）・県心身障害者総合福祉センター

・出席評議員 13名・出席監事 2名

・欠席評議員 2名

・議 事

議題1 理事の補充選任（案）について

議題2 定款変更（案）について

議題3 平成29年度事業実績報告について

議題4 平成29年度収支決算及び監査結果について

議題5 社会福祉充実計画について

・報告事項

(1) 評議員選任・解任委員会に推薦する評議員候補者について

(2) 常務理事の選任について

3 理事会

<第1回> ・6月8日（金）・県心身障害者総合福祉センター

・出席理事 8名・出席監事 2名

・欠席理事 0名・欠席監事 0名

・議 事

議題1 事務局長の任命（案）について

議題2 定款変更（案）について

- 議題3 平成29年度事業実績報告について
- 議題4 平成29年度収支決算及び監査結果について
- 議題5 社会福祉充実計画について
- 議題6 平成30年度第1回評議員会の招集について

・協議事項

- (1) 市町村協会に対する県協会負担金に関するアンケートの実施について
- (2) 市町村協会に対する第64回日本身体障害者福祉大会プログラム広告協賛団体の募集依頼について
- (3) 第37回秋田県身体障害者福祉大会について

・報告事項

- (1) 評議員選任・解任委員会に推薦する評議員候補者について
- (2) 理事の補充選任及び常務理事の選任について
- (3) 職員による協会の中期展望を検討する会からの報告について

<第2回> ・6月27日(水) ・県心身障害者総合福祉センター

- ・出席理事 6名・出席監事 1名
- ・欠席理事 2名・欠席監事 1名

・議事

- 議題1 評議員選任・解任委員会に推薦する評議員候補者について
- 議題2 常務理事の選任(案)について

<第3回> ・9月19日(水) ・県心身障害者総合福祉センター

- ・出席理事 8名
- ・欠席理事 1名

・協議事項

- (1) 全国大会実行委員会の設置と委員長及び副委員長の選出について
- (2) 全国大会実施要綱(案)及び大会次第(案)について
- (3) 全国大会収入・支出予算書(案)について
- (4) 全国大会準備作業の日程(案)について
- (5) 全国大会会場のレイアウトについて
- (6) 全国大会及び歓迎レセプションでのアトラクションについて
- (7) 全国大会での土産品の販売について

・報告事項

- (1) 東北・北海道ブロック身体障害者団体連絡会所属団体からの分担金の入金状況について
- (2) 広告協賛依頼状況について

<第4回> ・3月15日(金) ・県心身障害者総合福祉センター

・出席理事 9名・出席監事 2名

・欠席理事 0名・欠席監事 0名

・議 事

議題 1 情報公開規程制定(案)について

議題 2 職員給与規程一部改正(案)について

議題 3 障害者支援施設秋田ワークセンター運営規程一部改正(案)について

議題 4 秋田ワークセンター相談支援事業運営規程一部改正(案)について

議題 5 指定共同生活援助事業所コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム運営規程一部改正(案)について

議題 6 指定短期入所事業所コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム運営規程一部改正(案)について

議題 7 秋田ワークセンター苦情解決規程一部改正(案)について

議題 8 平成30年度資金収支補正予算(案)について

議題 9 平成31年度事業計画(案)について

議題10 平成31年度資金収支予算(案)について

・報告事項

(1) 負担金検討委員会における検討結果について

(2) 大館市協会からの県協会入会申込みについて

(3) 平成30年度業務執行状況について

(4) 全国大会準備作業進捗状況について

(5) 役員会等の開催日程について

4 監 査 平成29年度における理事の業務執行状況及び法人の財産の状況を監査

<秋田ワークセンター>・5月22日(火) 会議室

・出席者 監事2名、会長、所長

<法人本部事務局>・5月23日(水) 県心身障害者総合福祉センター会議室

・出席者 監事2名、会長

5 負担金検討委員会

<第6回>・10月17日(水)・県心身障害者総合福祉センター

・出席委員 6名・欠席委員 0名

(1) 委員長あいさつ

(2) 第5回検討委員会の概要

(3) 協 議

(4) 次回の日程について

<第7回>・1月23日(水)・県心身障害者総合福祉センター

- ・出席委員 5名・欠席委員 1名
- (1) 委員長あいさつ
- (2) 第6回検討委員会の概要
- (3) これまでの検討状況及び答申案作成に向けて検討願いたい事項
- (4) 次回の日程について

- <第8回> ・2月28日(木)・県心身障害者総合福祉センター
- ・出席委員 6名・欠席委員 0名
 - (1) 委員長あいさつ
 - (2) 第7回検討委員会の概要
 - (3) これまでの検討経緯及び検討結果

6 評議員選任・解任委員会

- <第1回> ・7月25日(水)・県心身障害者総合福祉センター
- ・出席委員 3名
 - ・議 事
 - 議題1 評議員の選任(案)について
 - 議題2 評議員の選任(案)について
 - 議題3 評議員の選任(案)について

○ 事業の実績

<重点目標1> 秋田ワークセンター利用者の自立と社会参加の促進

内容は9頁に記載

<重点目標2> グループホームの運営

内容は25頁に記載

<重点目標3> 障害者の自立更生の環境づくりと社会参加の促進

1 自立更生の環境づくり

障害者の自立更生の環境づくりのため、関係団体が自主的な事業に取り組めるように、事業助成金を交付した。

<参加者数>

・オストメイト社会適応訓練	117人
・音声機能障害者発声訓練	248人
・車いす生活者社会生活行動訓練	24人
・筋ジス者機能訓練	8人
・車いす使用者のためのレクリエーション	72人

2 社会参加の促進

(1) 身体障害者の更生相談

当協会に「身体障害者総合相談室」を常設し、各種相談に対して適切な指導や助言を行うことで福祉の増進を図った。

<相談件数> 7 件

(2) 「ジパング倶楽部特別会員」入会等の手続

JR東日本が行っている「ジパング倶楽部特別会員」の入会等の手続を仲介し、社会参加の促進に寄与した。

<入会件数>・新規 7 件 ・更新 120 件

<重点目標4> 市町村身体障害者協会の組織強化と活動の活性化

1 第37回秋田県身体障害者福祉大会の開催

障害者の福祉向上をめざす諸課題について、県民各層の理解を得るとともに、障害者自身の自立意識高揚と会員の団結を図り、併せて自立更生及び団体育成功労者の表彰を行った。

<被表彰者数>・自立更生功労者 7名 ・団体育成功労者 23名

2 市町村身体障害者協会長・事務担当者会議の開催

各市町村身障協会の活動事例の情報交換等により、活動の活性化の重要性を認識した。

<参加者数>・横手市開催 13名 ・秋田市開催 17名 ・北秋田市開催 22名

3 軽スポーツレクリエーション大会の実施

障害の程度や年齢に関係なく、仲間と気軽に楽しく参加できる大会を実施し、障害を持つ方々の社会参加と健康維持・増進を図りながら、組織強化にも繋げた。

<実施日> 9月29日(土)

<会場> 秋田県社会福祉会館

<参加者数>・卓球バレー 75名 ・フライングディスク 47名

4 会報「身障秋田」の発行

当協会の事業計画や、予算・決算を掲載した会報「身障秋田」を作成し、市町村協会会員等に配布することにより、市町村協会活動の活性化と関係団体への広報を促進した。

<発行月> 1月

<発行部数> 4,300部

<重点目標5> サービス管理責任者等の人材育成事業の推進

1 サービス管理責任者（児童発達支援管理責任者）研修会の実施

障害者総合支援法の適切かつ円滑な運営に資するため、サービスの質の確保に必要な知識や技能を有するサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者を養成した。

<研修日数> 9日

<受講者数> 327名

<重点目標6> 身体障害者、知的障害者及び精神障害者を統合した事業の推進

1 第18回心いきいき芸術・文化祭の開催

障害者が芸術・文化活動への参加を通して、障害者本人の生きがいや自身を創出し、障害者の自立と社会参加を促進するとともに、障害者に対する県民の理解と認識を深めた。

<作品応募数> ・身体90点 ・知的103点 ・精神138点

<製品販売施設数> 32事業所

<パフォーマンスステージ出演者数> ・団体 6組 ・個人 4名

2 障害者差別解消法理解促進事業の実施

障害者差別解消法の周知、障害への理解促進を図ることを目的に、県民向け関連イベントである第18回心いきいき芸術・文化祭と連携し、障害者差別解消法の周知・理解促進等に係る講演や障害者疑似体験を実施した。

3 「障害者110番」の設置・運営

障害者の権利擁護にかかる相談等に対応するため、相談窓口を常設し、内容に応じて弁護士等による専門相談を行うなど、障害者の福祉の増進を図った。

<相談件数> ・身体 18件 ・知的 25件 ・精神 44件

・弁護士相談 2件(内数)

3 秋田県障害者社会参加推進センターホームページの運営

障害者情報ネットワーク「ノーマネット」を活用した独自のホームページを開設し、身体・知的・精神障害者に関する各種情報を提供した。

<年間アクセス数> 3,779件

社会福祉法人秋田県身体障害者福祉協会
指定障害者支援施設秋田ワークセンター
平成30年度 事業実績報告

総 括

他県では自然災害による甚大な被害を受けた年であったが、当施設は自然災害による被害、利用者における大きなトラブルや事故、職員による事故・事件もなく、今年度の事業についてはおおむね計画のとおり実施することができた。

しかしながら、収支においては、入所利用者の重度化・高齢化が顕著となり当施設での対応が不可能となったため他施設へ入所した者や、地域生活に移行するためグループホームへ入所した者が多かった一方で、新たな入所者が少なく、関係機関からの情報収集に努めたが、現在も入所検討者が2名程度の状態で、収支のバランスを改善することは出来なかった。

着実に進んでいる入所利用者の重度化・高齢化への対応として11月より看護師を新たに1名増員し、利用者の健康管理や医療支援の充実に努めた。併せて、生活介護事業における日中活動の充実に努めているところであり、その効果も少しずつ出ている。

景気回復に緩やかな兆しはあるものの、低価格化が続いている就労支援事業では、官公需による受注も横ばい状態である。営業力を強化する為の取り組みは行っているものの、受注量の増加は難しいところであるが、どうにか今年度当初の売上目標を達成することができたところである。

しかしながら機械及び器具は確実に毎年消耗しており、作業効率の向上及び維持のためには、機器の整備、交換が必要不可欠なことであるため、今年度も機械の整備、補修など一部を除き計画的に行ったところである。

平成30年度の事業実績は次のとおりである。

1 定員及び現員の状況

(平成31年3月31日現在)

施設入所支援事業	利用定員	54名	／	現員	44名	(男性31名、女性13名)
生活介護支援事業	利用定員	48名	／	現員	40名	(男性27名、女性13名)
就労移行事業	利用定員	6名	／	現員	0名	
就労継続A型事業	利用定員	10名	／	現員	7名	(男性7名、女性0名)
就労継続B型事業	利用定員	30名	／	現員	33名	(男性26名、女性7名)

2 職員配置の状況

(平成31年3月31日現在)

職 種	職員数		担 当 業 務
	30年度末	29年度末	
所 長	1	1	所内の総括、苦情解決責任者、会計責任者
サービス管理責任者	2	2	利用者の個別支援計画、アセスメント、利用計画原案、モニタリング等相談業務及び記録等の確認 (生活介護・施設入所支援事業1名、就労支援事業1名)
事 務 員 (支援員兼務)	4(2)	5(2)	サービス区分の予算・決算の事務処理及び金銭の出納 利用者利用料の請求・精算業務等、職員の給与、福利厚生業務、利用者支援等

生活支援員	9(7)	10(6)	生活介護支援及び日常生活支援、相談業務
就労支援員	8(3)	8(3)	作業支援及び指導、製品管理、営業販売、相談業務
看護師	2	1	利用者及び職員の健康管理
栄養士	2(1)	2(1)	利用者の給食献立、利用者の栄養管理
調理員	4(4)	4(4)	給食業務
嘱託医	1(1)	1(1)	利用者の検診、医務相談
その他	2(2)	3(3)	給食業務補助
合計	34(20)	37(20)	

※職員数の（ ）の数は嘱託職員・非常勤職員及びパート職員の再掲

3 事業の実施状況

(1) 施設入所支援事業

年毎に確実に入所利用者の重度化・高齢化が進み、それに対応できる事業所として、利用者が安全に、安心して暮らせるよう利用者へのアセスメントやモニタリングに十分時間をとり、利用者のニーズを達成するため関係者で話し合いを行い、個別支援の充実を図った。

また、利用者の身辺自立を妨げないよう考慮した、施設設備の改善を進めるとともに、切れ目のない支援が出来るよう、夜勤者及び日勤者が起床・就寝時、朝・夕の食事前後、土日・祭日及び緊急時における様々なニーズに対応するため、申送り等により情報共有化を図り、生活支援の充実を努めた。

更に、職員のチーム化や支援動作の検証を行い、マニュアル化し、支援の格差がなく、職員個々の無駄な動きや重複支援を省くなど、効果的な支援の実施やリクス軽減のための支援体制の整備を行い、利用者が日々、人と人のふれあいを大切に思う心の助長や、健康管理、食事・排せつ支援及び日々の生活相談や情報提供での充足感を感じられるサービス提供に努めた。

(2) 生活介護支援事業

利用者のニーズに応える多様な創作活動やレクリエーションなど、日中活動プログラムの充実を図り、利用者が望む日々の生活の実現に努め、食事や入浴、排せつの介護、生活情報の提供など、日常生活における個人支援プログラムに沿ったサービス提供に努めた。

更に、身体の機能維持や健康の保持、増進のために理学療法士による機能訓練計画を立て、計画に沿った訓練をほぼ毎日実施するとともに、看護師を2名体制にして健康診断、通院・受診及び服薬支援のサービス提供を行った。

食生活の充実のため、配膳や下膳はもちろんのこと、配茶やスプーン、フォーク等についても個人に合った物を準備したり、年齢とともに低下する嚙む力や飲み込む力の予防のためお口の体操をほぼ毎日行い支援の充実を努めた。

季節感を出すために毎月のように行事を開催し、併せて様々な方々との交流が出来るように夏祭りや日帰り旅行、地区運動会、小学生生徒とのだまっこ交流会、クリスマス会などを開催し、四季折々の行事を行うことに努めた。

(3) 就労支援事業

景気の状態はゆるやかな回復の兆しがあり、売上目標 6,306 万円に対し、6,707 万円と今年度の目標を達成することが出来た。しかし、年々機械設備の老朽化もあり修繕にかかる費用も多くなっている。

利用者の工賃及び賃金の総支給額は 18,092 千円で、前年比 803 千円で微増ではあるが増額となっている。

① 就労移行支援事業

就労移行支援を希望する利用者がいなく今年度は休止とした。なお、一般就労に就いた利用者への相談支援や企業訪問は実施しており職場定着に向けた取り組みは継続している。

② 就労継続A型事業

- ・ 印刷事業の受注先は一般企業からの発注が大半を占めている。優先調達推進法が施行され、労働局、高齢障害求職者雇用支援機構等からの官公需の随意契約による受注が若干ではあるが増えてきている。その反面、県からの受注は契約内容がマッチングしないため、ほとんど受注出来ない状況である。また、秋田市役所からの受注は、他施設との競争入札で価格が下がり収益を上げる金額で落札することが難しくなっている。

年賀はがきの印刷は、例年通り既存の顧客に対してダイレクトメールを送付し、受注の確保に努めてきたが、顧客の高齢化や若者の年賀状離れにより受注件数、受注枚数は年々減少してきている。

営業面に於いても、当施設の福祉事業に理解のある企業関係、あるいは学校や保育所、地区社協等へ会報作成等の情報収集と営業を行っているものの、まだまだ競争も厳しく売上の増加には結びつかない状況がある。

- ・ リサイクル作業は、取引企業や福祉施設、古紙ステーションを利用しての地域住民等からの安定した回収作業ができるようになったが、全体としては回収量、買取価格も横ばいの状況である。

③ 就労継続B型事業

- ・ 軍手作業の受注数は、若干ではあるが減少傾向にあり売り上げも減少している。原材料費の値上げが続いていることに加え、軍手編み機の老化に伴い修繕が必要な機械が多いが、品質の安定を図り質の高い製品作りを行う為、随時点検整備を実施している。
- ・ ウェス作業の受注件数は増加している。1件あたりの注文が大口になることがあり売り上げが伸びている。そのため、材料や在庫がない時には納期に遅延が生じることはあるが、材料の確保が安定するように情報収集を図り遅延無く納品できるように取り組んでいる。
- ・ 売店「ハートランド」は利用客数の増加が難しく、売上を伸ばすことが出来なかった。また、福祉会館の使用料等の経費負担が大きく、作業を中心的に行っていた利用者が辞めたため、平成30年度末で閉店し事業を廃止することにした。
- ・ 清掃作業は、施設内の清掃を受託し、現在5名が従事しており、安定した収入源となっている。また、入所利用者の快適な環境づくりにも大きく貢献している。
- ・ 新たな受託作業として銅線の皮むき作業を継続している。比較的多くの利用者が出来る作業であり毎月1トンを目標として取り組んでいる。

4 施設の整備状況

① 自動ドアの部品交換

耐用年数が経過しているため、部品の交換を行った。

② 第2作業棟階段横の雨水止め工事

降雨時、一部の雨水が升に流れず階段下に直接流れ込み通路が水浸しになるため、補修を行った。

③ 第2作業棟階段改修工事

年数経過により踏み板の腐食が著しく、塗装による修繕も不可能であるため改修を行った。

④ 暖房設備オイルポンプ、モーター、循環ポンプの修繕

年数経過により不具合が生じたため、修繕を行った。

⑤ 避難路(一部)の補修工事及び駐車場のライン引き

所長室脇の避難路に亀裂や段差があり、避難時転倒等の事故を防ぐため補修工事を行った。
また、駐車スペースを確保し通行の安全を確保するため、ライン引き工事を行った。

⑥ 浄化槽放流ポンプの交換工事

年数経過により、一部のポンプが故障したため交換工事を行った。

5 機器の購入及び設備の整備状況

(1) 施設全般

① 第2作業棟エアコンの交換

年数経過により交換した。

(2) 生活介護支援事業

① 車椅子仕様軽自動車（リース）の導入

② 談話室のロビーチェア購入

年数経過により座面のへこみが見られるようになったため、座面が少し高く立ち上がりがスムーズに行えるような長椅子を購入した。

③ 生活支援活動室のエアコン洗浄作業

エアコンの洗浄作業を行った。

(3) 就労継続支援事業

① 印刷事業 編集用パソコン一式を購入した。

② 印刷事業 レーザープリンターを購入した。

③ 印刷事業 デジタル製版機を購入した。

④ ウェス 裁断機を購入した。

6 給食提供の状況

(1) 行事食・選択食の実施

四季折々の日本の食文化や斬新なアイデアを盛り込んだメニューなど、満足感や幸福感など心理的な面も大切にしながら、楽しい豊かな食事提供を目指し、年17回の行事食と11回の選択食を実施した。

(2) 利用者の健康づくり

年4回の食事摂取調査、身体・健康状況に関するデータを支援員、看護師などの専門職と共有、連携し、個別の栄養ケア・マネジメントの作成により、健康的な身体機能の維持、増進のために栄養と健康の管理に努めた。

2015年からの厚生労働省「日本人の食事摂取基準」に基づき、生活習慣病の重篤化と合併症予防のため、栄養バランスと節塩を重視したメニュー提供と食事指導を実施した。

(3) 福祉弁当

下北手地区社会福祉協議会から委託を受けて、地域の独居老人に対して月1回(6月～9月の夏季間は中止)、年間59食の福祉弁当を提供した。

7 健康管理の状況

(1) 定期健康診断、定期健診等

健康管理のために年2回の定期健康診断、月2回の嘱託医の診察、月1回の体重測定、週1～2回の血圧測定などの定期健診の充実を図り、疾病の早期発見・早期治療に努めた。

また、利用者の96%の人は何らかの疾病を抱え治療中であるため、定期通院、内服管理の徹底に努めた。

(2) インフルエンザ予防

インフルエンザ予防のために、予防接種料金を一部施設負担で希望者（利用者65名、職員36名）に行った。罹患者は通所利用者2名と職員2名、感染の拡大はなかった。

(3) ノロウイルス等感染症予防

所内での感染を防ぐために、施設内の消毒、普段の手洗い、うがいを励行し、朝の会やポスターの掲示等を通じて清潔感の助長に努めるとともに、所内研修において発生時の対応についての手順、注意事項を確認した。今年度の罹患者はいなかった。

(4) 機能訓練の実施

平日の月曜日から金曜日の、午後1時半から午後3時まで、理学療法士の作成した個別プログラムに添った機能訓練を実施し、身体機能の保持増進を図った。

8 衛生管理の状況

(1) 寝具類の交換及びシーツ交換

寝具類（枕、掛布団・毛布等）の交換を年1回、シーツ・カバー類（シーツ、布団・毛布カバー）は毎週1回行い、寝具類の清潔に努めた。

(2) 居室、浴室及び便所等の清掃

利用者の居室清掃（荷物の整理整頓及び床や隅々の清掃）を週1回以上行いまた、共通部分である便所、浴室、脱衣室、廊下、多目的ホール等の清掃及びワックスがけを行い、衛生管理に努めた。

(3) 入浴

一般入浴を月・木曜日の午後1時から午後5時まで行い、7月～9月の期間は水曜日にもシャワー入浴を行った。

介護及び支援入浴は火・金曜日に行い、女子は午前10時00分から午前12時00分まで、男子は午後1時30分から午後4時00分までとした。その他、入浴の出来ない利用者には清拭等も行いながら、身体の衛生保持に努めた。

9 災害事故防止等訓練の状況

(1) 重度障害者への防災上の配慮

① 同室者（2人部屋）への配慮として、できるだけ歩行の困難な人同士、聴覚障害者同士等の組み合わせにならないよう配慮し、やむを得ず同室にする場合は、緊急呼出ベルの設置や、隣室者からの協力や職員への通報を密にするなどの配慮をした。

② 障害の程度によって避難路の確保に努めた。また、歩行の困難な人、目の不自由な人等は避難口に近い居室にするなどに配慮をした。

- ③ ベッドで寝たままの状態での避難させることができるよう工夫をした。
- ④ 予備の車椅子を設置した。
- ⑤ 浴室・脱衣室から容易に避難できるよう介護用布担架を常備している。

(2) 事故や災害防止と安全のために

① 防災計画

きめ細やかな消防・防災計画の整備と万全な備えを行い、予防に重点を置いた取り組みを実施し、設備の点検・管理や整理・整頓を徹底した。

② 避難訓練

所轄の秋田市城東消防署の指導を得て、日中・夜間（想定）も含めた総合訓練（通報、初期消火、避難、オイルパン使用の消火器操作訓練等）や、地震想定での避難訓練を行うと共に、災害を未然に予防する防火思想の普及・徹底を図った。

また、災害時や停電時における安全対策や機械器具、装置の操作手順の周知に努めた。

発電機からコンセントまでの電線の整備を行い、常にナースコール対応ができる等、停電時の電源の確保に努めた。

10 就労支援事業の研修

事業名	研修日	研修場所	参加者数	備考
就労A・B型事業利用者・家族会合同研修	7月13日(金)	・ヤマダフーズおはよう納豆工場視察 ・横手ふるさと村(食事・買物) ・神宮寺観光果樹園(ブルーベリー狩り)	A型2名、 B型20名、 家族会3名、 計25名	

11 就労支援事業の推移

(1) 事業収入額の推移

(単位：円)

年度\事業	就労移行支援 (内部加工)	就労継続支援 A型(雇用型)	就労継続支援 B型(非雇用型)	年度総計
平成26年度	0	46,221,705	16,315,893	62,537,598
平成27年度	33,750	45,941,768	18,228,562	64,204,080
平成28年度	89,300	43,829,004	19,345,495	63,263,799
平成29年度	101,002	42,248,135	20,278,509	62,627,646
平成30年度	0	46,246,214	20,825,252	67,071,466

(2) 工賃支給実績額の推移

(単位：円)

年度\事業	就労移行	就労継続A型	就労継続B型	年度総計
平成26年度	0	12,155,507	6,302,618	18,458,125
平成27年度	33,750	14,525,502	4,994,510	19,553,762
平成28年度	89,300	13,233,154	5,795,050	19,117,504
平成29年度	88,850	13,602,256	3,597,700	17,288,806
平成30年度	0	12,183,983	5,908,490	18,092,473

12 利用者の状況

平成31年3月31日現在

(1) 生活介護事業・施設入所

(施設入所には就労支援事業利用者10名を含む)

① 委託機関ごとの入、通所者数

区分	入所利用者			通所利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	
秋 田 市	19	10	29	3	3	6	35
男 鹿 市	1	1	2	0	0	0	2
横 手 市	1	1	2	0	0	0	2
大 仙 市	4	0	4	0	0	0	4
能 代 市	2	0	2	0	0	0	2
北 秋 田 市	1	0	1	0	0	0	1
に か ほ 市	1	0	1	0	0	0	1
小 坂 町	1	0	1	0	0	0	1
三 種 町	1	1	2	0	0	0	2
合計	31	13	44	3	3	6	50

② 年齢別、性別の状況

区分	入所利用者			通所利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0
20～29	0	1	1	0	1	1	2
30～39	1	0	1	2	2	4	5
40～49	3	2	5	1	0	1	6
50～59	4	5	9	0	0	0	9
60～69	14	3	17	0	0	0	17
70歳以上	9	2	11	0	0	0	11
合計	31	13	44	3	3	6	50
平均年齢	63 歳	55 歳	61 歳	35 歳	31 歳	33 歳	57 歳

③ 入、通所利用者在所期間の状況

区分	入所利用者			通所利用者			合計	
	男	女	計	男	女	計	人数	比率
1年未満	2	1	3	0	0	0	3	6%
1年以上～3年未満	4	4	8	0	0	0	8	16%
3年以上～5年未満	0	1	1	0	0	0	1	2%
5年以上～10年未満	6	1	7	0	1	1	8	16%
10年以上～15年未満	5	1	6	3	2	5	11	22%
15年以上	14	5	19	0	0	0	19	38%
合計	31	13	44	3	3	6	50	100%

④ 出身世帯の状況

区分	入所利用者		通所利用者		合計	比率
	男	女	男	女		
親が生存	10	8	3	3	24	48%
兄弟、姉妹世帯	11	4	0	0	15	30%
配偶者の有	1	0	0	0	1	2%
甥、姪、叔父、叔母の世帯	5	0	0	0	5	10%
息子、娘の世帯	2	1	0	0	3	6%
無世帯	2	0	0	0	2	4%
合計	31	13	3	3	50	100%

⑤ 年金受給状況

区分	入所利用者		通所利用者		合計	比率
	男	女	男	女		
国民年金障害基礎年金	19	10	3	3	35	70%
厚生年金	3	2	0	0	5	10%
老齢年金	0	0	0	0	0	0%
生活保護	7	1	0	0	8	16%
未受給	2	0	0	0	2	4%
合計	31	13	3	3	50	100%

⑥ 入、通所利用者数とその経路

区分	入所利用者			通所利用者			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
施設（更生、授産他）	25	8	33	3	3	6	28	11	39
自宅	5	4	9	0	0	0	5	4	9
病院	1	1	2	0	0	0	1	1	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	31	13	44	3	3	6	34	16	50

⑦ 退所利用者数と退所理由

区分	入所利用者			通所利用者			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
自宅（家庭復帰）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
措置変更（他施設）	5	0	5	0	0	0	5	0	5
措置変更（入所から通所）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	0	5	0	0	0	5	0	5

⑧ 障害程度区分

区分	1	2	3	4	5	6	合計
30歳以下	0	1	0	0	0	0	1
30歳以上	0	0	0	1	0	0	1
40歳以上	0	1	3	1	0	0	5
50歳以上	0	1	3	3	2	0	9
60歳以上	0	3	5	7	2	0	17
70歳以上	0	2	4	2	2	1	11
合計	0	8	15	14	6	1	44

(2) 就労支援事業

() 内の数字は施設入所者

① 委託機関ごと利用者数

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			就労移行利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
秋 田 市	7	0	7	22(5)	5(2)	27(7)	0	0	0	34(7)
男 鹿 市	0	0	0	1(0)	0(0)	1(0)	0	0	0	1(0)
横 手 市	0	0	0	0(0)	2(1)	2(1)	0	0	0	2(1)
能 代 市	0	0	0	1(0)	0(0)	1(0)	0	0	0	1(0)
由 利 本 荘 市	0	0	0	0(0)	0(0)	0(0)	0	0	0	0(0)
北 秋 田 市	0	0	0	1(1)	0(0)	1(1)	0	0	0	1(1)
に か ほ 市	0	0	0	1(1)	0(0)	1(1)	0	0	0	1(1)
潟 上 市	0	0	0	0(0)	0(0)	0(0)	0	0	0	0(0)
合計	7	0	7	26(7)	7(3)	33(10)	0	0	0	40(10)

② 年齢別、性別の状況

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			就労移行利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
20歳未満	0	0	0	2(0)	0(0)	2(0)	0	0	0	2(0)
20～29	0	0	0	5(0)	2(1)	7(1)	0	0	0	7(1)
30～39	1	0	1	3(0)	3(0)	6(0)	0	0	0	7(0)
40～49	2	0	2	6(3)	1(1)	7(4)	0	0	0	9(4)
50～59	3	0	3	4(1)	1(1)	5(2)	0	0	0	8(2)
60～69	1	0	1	5(2)	0(0)	5(2)	0	0	0	6(2)
70歳以上	0	0	0	1(1)	0(0)	1(1)	0	0	0	1(1)
合計	7	0	7	26(7)	7(3)	33(13)	0	0	0	40(10)
平均年齢	50 歳	0 歳	50 歳	44 歳	36 歳	42 歳	0 歳	0 歳	0 歳	46 歳

③ 利用者在所期間の状況

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			就労移行利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
1年未満	0	0	0	2(0)	1(0)	3(0)	0	0	0	3(0)
1年以上～3年未満	0	0	0	1(0)	0(0)	1(0)	0	0	0	1(0)
3年以上～5年未満	1	0	1	6(0)	0(0)	6(0)	0	0	0	7(0)
5年以上～10年未満	0	0	0	7(0)	1(1)	8(1)	0	0	0	8(1)
10年以上～15年未満	6	0	6	10(7)	5(2)	15(9)	0	0	0	21(9)
15年以上	0	0	0	0(0)	0(0)	0(0)	0	0	0	0(0)
合計	7	0	7	26(7)	7(3)	33(10)	0	0	0	40(10)

④ 出身世帯の状況

区分	A型通所利用者				B型通所利用者				就労移行利用者			
	男	女	合計	比率%	男	女	合計	比率%	男	女	合計	比率%
親が生存	5	0	5	63%	21(5)	7(3)	28(8)	85%	0	0	0	0%
兄弟、姉妹世帯	2	0	2	25%	5(2)	0(0)	5(2)	15%	0	0	0	0%
配偶者の有	1	0	1	13%	0(0)	0(0)	0(0)	0%	0	0	0	0%
息子、娘の世帯	0	0	0	0%	0(0)	0(0)	0(0)	0%	0	0	0	0%
家庭消滅	0	0	0	0%	0(0)	0(0)	0(0)	0%	0	0	0	0%
合計	8	0	8	100%	26(7)	7(3)	33(10)	100%	0	0	0	0%

⑤ 年金受給状況

区分	A型通所利用者				B型通所利用者				就労移行利用者			
	男	女	合計	比率%	男	女	合計	比率%	男	女	合計	比率%
国民年金障害基礎年金	5	0	5	72%	18(3)	7(3)	25(8)	75%	0	0	0	0
厚生障害年金	1	0	1	14%	2(2)	0(0)	2(2)	6%	0	0	0	0
老齢年金	0	0	0	0%	0(0)	0(0)	0(0)	0%	0	0	0	0
生保と年金	0	0	0	0%	2(1)	0(0)	2(1)	6%	0	0	0	0
未受給	1	0	1	14%	4(0)	0(0)	4(0)	12%	0	0	0	0
合計	7	0	7	100%	26(7)	7(3)	33(10)	100%	0	0	0	0

⑥ 利用者数とその経路

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			就労移行利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
他の事業所	6	0	6	4	0	4	0	0	0	10
自宅	1	0	1	3	0	3	0	0	0	4
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	12	4	16	0	0	0	16
合計	7	0	7	19	4	23	0	0	0	30

⑦ 退所利用者数と退所理由

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			就労移行利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
自宅(家庭復帰)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他施設に変更	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所から通所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	1	0	1	1	0	0	0	2
合計	1	0	1	0	1	1	0	0	0	2

(3) 利用者の診察、処置等の状況

区分	施設医務室における処置		入院		通院		
	実人員	延処置日数	実人員	延日数	実人員	延日数	
診療科目	内科系疾患	5	363	3	77	45	485
	外科系疾患	14	2,002	2	48	16	81
	精神科	0	0	1	63	9	54
	皮膚科	31	4,765	1	55	31	202
	眼科	7	1,106	0	0	22	46
	歯科	0	0	0	0	16	124
	耳鼻科	1	10	0	0	7	16
	泌尿器科	0	0	1	1	8	176
	その他	0	0	1	108	2	4
合計	59	8,246	9	352	156	1,188	

(4) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)、結核、疥癬等感染症等の予防対策及び実施状況

予防対策	実施状況
<p>① (MRSA) : うがい、手洗いの励行。 看護者の処置始めと終わりに手洗い消毒を徹底する。 高圧蒸気滅菌器により器具を消毒。 自動手指消毒器を設置。</p> <p>② 結核 : 1回/年、胸部レントゲン写真の撮影を実施。内科検診。</p> <p>③ 疥癬 : 清潔、センター周囲の環境整備。</p> <p>④ ノロウイルスによる感染性胃腸炎、病原性大腸菌O-157。 手洗い、うがい、身体の抵抗力を養う。 異常の早期発見。自動手洗機、石鹼液の設置。</p> <p>⑤ インフルエンザ : インフルエンザワクチン接種。</p>	<p>① 紙コップ、ペーパータオルを置き、声かけをし、うがい、手洗いの励行に努めた。また、通院後、手指消毒器により消毒し、処置の始め、終わりにも消毒を実施した。</p> <p>② 結核検診を1回/年、内科検診を2回/年実施した。</p> <p>③ 寝具類の清潔を図る。 寝具の交換(年一回以上)、シーツ交換1回/週。</p> <p>④ 安全な食事の提供。手洗いの徹底。体調不良者を早期にチェックする。</p> <p>⑤ インフルエンザワクチンの接種。 利用者65名、職員36名</p>

(5) 利用者の定期健康診断

期間	実施人員	調査項目	検査機関
6月6日～6月20日	5名	胸部X線検査 (直接)	中通りハビリ病院
6月6日	27名	〃 (直接)	ふき健診クリニック
	3名	大腸がん (便潜血)	〃
	17名	採血 (貧血、肝機能)	〃
	24名	心電図	〃
	41名	視力検査	〃
	31名	聴力検査	〃
	31名	尿検査	〃
7月19日～ 8月 9日	全員	内科検診、聴打診 血圧測定、問診	ひがし稲庭クリニック
6月 6日～ 7月27日	7名	生活習慣病予防検査 (A型利用者)	秋田赤十字病院
	7名	大腸ガン検査	ふき健診クリニック
	4名	胃検診	ミチヒロ胃腸内科
平成31年 2月 7日～ 3月 7日	全員	内科検診、問診 血圧測定	ひがし稲庭クリニック

13 職員の定期健康診断

期間	実施人員	実施職種	検査項目	検査機関
6月 7日～ 7月19日	16名	35歳以下 の職員	胸部X線検査、尿検査、心電 図、採血検査他 (労働安全衛生法66条に基づく検査)	ふき健診クリニック 〃 〃
6月 5日～ 3月 4日	24名	35歳以上 の職員	生活習慣病予防検査 大腸がん検査、乳癌 子宮がん、胃検診	秋田赤十字病院 附属あきた健康管理センター 市立秋田総合病院
12月 7日～12月25日	13名	夜勤職員	血圧、問診、尿、身長、体重	ひがし稲庭クリニック

14 避難訓練の実施

月日	訓練の想定	訓練内容詳細
7月 4日	救急救命講習	城東消防署員による救急処置の手順 (心肺蘇生と AEDの使用手順)
7月18日	夜間火災想定訓練 消火器操作訓練	非常通報、初期消火、避難誘導、救急救護、非常 放送、停電時非常発電機操作 (照明、給水ポンプ)
	災害時通報装置連絡網 伝達・駆け付け訓練	全職員による災害時通報装置作動訓練、 緊急連絡網伝達訓練、施設への職員駆け付け訓練
10月10日	日中火災想定訓練 消火器操作訓練	全職員による非常通報、初期消火、避難誘導、 救急救護、非常放送
平成31年 2月20日	日中地震想定訓練	全職員による非常放送、避難誘導、救急救護

15 所内研修の実施

実施日	実施内容	講師及び解説者	摘要
6月20日	急変時の判断、対応方法について 1 救急車を要請する場合 2 症状別対応について (外傷等の手当)	土田看護師	参加者：13名 支援員、事務員 看護師、栄養士
7月 4日	緊急時の救命「救急救命講習」 e-ラーニング(応急手当WEB講習) 救急処置の手順 (心肺蘇生法とAEDの使用手順)	城東消防署員 1名	参加者：7名 支援員、事務員 調理員、栄養士
10月 3日	感染症の予防対策について 1 感染予防対策の基本について 2 ノロウイルス・インフルエンザ について 3 下痢・嘔吐症状のある方への対応 について 4 実技(手の洗い方、エプロンの着 脱等)	土田看護師	参加者：15名 支援員、相談員 事務員、栄養士
平成31年 1月24日	身元引受人について 1 あきた結いネットの取組みについて 2 身元引受人について 3 成年後見制度等の関係について	NPO法人あき たネット 相談支援専門員 2名	参加者15名 支援員、相談員 看護師、事務員 栄養士

16 所外研修の実施

実施日	研修内容	参加の状況
4月25日	秋田県社会就労センター協議会施設長等セミナータイアップ研修～第1回工賃向上セミナー～ 秋田市、秋田県社会福祉会館	就労支援員 2名
4月27日	第10回赤十字・国際人道法教育フォーラム ～社会福祉施設における災害対策～ 秋田市、日本赤十字秋田看護大学・短期大学 体育館	総務管理課長
6月11日	安全運転管理者講習会 秋田市、秋田県庁第2庁舎	総務管理課長
6月14日～15日	福祉保健施設・事業者等職員新任研修 秋田市、秋田県社会福祉会館	生活支援員 1名
6月22日	衛生セミナー ～食中毒体感セミナー～ 秋田市、サンライフ秋田	管理栄養士 1名 調理員 1名
7月10日	社会福祉法人研修 秋田市、秋田市役所正庁	所長
7月12日～13日	全国社会就労センター協議会総合研究大会 青森市、ホテル青森	就労支援員 1名
7月19日	秋田県障がい者総合支援協議会・相談支援関係者ネットワーク会議 秋田市、秋田県社会福祉会館	相談支援員 1名
7月24日	「元氣な秋田を創る」ための研修会に向けた懇談会 秋田市、秋田県社会福祉会館	所長
7月24日～25日	福祉保健施設・事業者等職員中堅研修(組織性) 秋田市、秋田県庁第2庁舎	生活支援員 1名
7月30日～8月1日	全国身体障害者施設協議会研究大会 大阪市、グランキューブ大阪	栄養士 1名
8月22日	秋田県社会就労センター協議会 第2回工賃向上セミナー 秋田市、秋田県社会福祉会館	就労支援員 1名
8月31日	相談支援従事者及びサービス管理責任者指導者・ファシリテーター養成研修	サビ管(就労) 1名

9月10日～11日	秋田市、秋田県総合庁舎 秋田県強度行動障害支援者養成研修・基礎研修 秋田市、中央地区老人総合エリア	生活支援員(GH) 1名
9月27日～28日	東北ブロック身体障害者施設職員研修会 花巻市、ホテル千秋閣	生活支援員1名
10月4日	秋田県知的障害児者生活サポート協会研修「親亡き後を考えるシンポジウム」 秋田市、秋田キャッスルホテル	相談支援員1名
10月9日	クレーム対応研修 秋田市、秋田県社会福祉会館	管理栄養士1名
10月11日	秋田市障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく集団指導 秋田市、秋田市役所	所長
10月16日	就業支援実践研修「発達障害コース」 潟上市、ポリテクセンター秋田	就労支援員1名
10月22日	福祉保健施設・事業者等看護職員研修 秋田市、秋田県社会福祉会館	看護師1名
10月22日	障がい者就労支援事業所 職員のための営業基礎研修 仙台市、TKP仙台東口ビジネスセンター	就労支援員1名
10月23日～24日	キャリアパス対応生涯研修(チームリーダーコース) 秋田市、秋田県社会福祉会館	サビ管理(生活) 1名
10月30日	東北ブロック身体障害者施設協議会職種別(専門)研修会 仙台市、仙台市中小企業活性化センター・ホテルJAL シティ仙台	所長、総務管理 課長、サビ管(生活)栄養士
10月30日～31日	地域生活支援推進研究会議 東京都、ホテルベルクラシック東京	相談支援員1名
11月12日	「労働安全衛生対策及び働き方改革」講習 秋田市、秋田市文化会館	総務管理課長
11月14日～15日	秋田県サービス管理責任者研修(就労) 秋田市、秋田県社会福祉会館	生活支援員1名
11月21日～22日	秋田県身体障害者施設協議会職員研修会 鹿角市、鹿角パークホテル	所長、生活支援 員1名、就労支 援員1名
11月21日	サビ管と相談支援専門員による研修会 秋田市、秋田市役所センター	相談支援員1名 サビ管(GH)1名
12月6日～7日	福祉保健施設・事業所等職員新任研修 秋田市、秋田県社会福祉会館	生活支援員1名
12月17日	福祉サービスに関わる苦情解決研修会 秋田市、秋田県社会福祉会館	生活支援員1名
2月14日	初めてのIT管理者セミナー2019 秋田市、秋田市文化会館	事務員1名
2月22日	秋田市地域保健・福祉活動推進事業 学び逢いプロジェクト「親亡き後問題」を考えよう 秋田市、秋田県ゆとり生活創造センター 遊学舎	生活支援課長 就労支援課長 サビ管(GH)
3月17日	成年後見制度の利用促進に向けたフォーラム 秋田市、秋田キャッスルホテル	生活支援課長

社会福祉法人秋田県身体障害者福祉協会
秋田ワークセンター相談支援事業所
平成30年度 事業実績報告

総 括

平成24年11月に事業開始してから約6年半が経過し、事業も安定し、大きな問題やトラブルもなく、利用者及び計画作成件数は概ね順調に推移している。

また、今年度は相談支援専門員が1名体制となったため、事業の継続性に努めたところである。

しかしながら、制度が作業量に比べて低い報酬額であることや、職員1名が1年間で担当できる件数は限られ、利用者を一定以上増やすことができないことなどから、収入を多くすることが難しく、今年度も収支バランスを改善するには至っていない。

相談支援事業は、障害者が障害福祉サービスを活用した、社会生活の基盤となる事業であり、地域にとっては必要不可欠な事業であるため、これまでと同様に充実した支援に努めた。

平成30年度の事業実績は次のとおりである。

1 事業及び職員

- (1) 事業 指定特定相談支援事業（計画作成）
- (2) 職員 管理者 1名（常勤・兼務）
相談支援専門員 1名（常勤・専任）

2 事業の内容

- (1) サービス等利用計画の作成及び提出
- (2) サービス等利用計画作成後の便宜の提供
- (3) サービス等利用計画の変更

3 事業の対象者

- (1) 身体障害者
- (2) 知的障害者

4 月別件数

月	利用計画作成		モニタリング	
	身体	知的	身体	知的
4月	12	23	10	9
5月	2	2	6	15
6月	2	1	3	16
7月	4	0	10	3
8月	2	0	6	6
9月	0	1	9	19
10月	6	1	4	5
11月	2	0	10	2

12月	13	7	6	2
1月	0	9	4	3
2月	0	2	3	5
3月	2	4	8	4
計	45	50	79	89
総数	95 (98)		168 (156)	

() は前年度実績

5 会議・研修への参加

期間	内容	出席者
月1回(7月～2月)	障がい者総合支援協議会相談支援部会 秋田市役所	相談支援専門員
月1回(4月～1月)	地域生活支援拠点作業部会 秋田市役所	管理者、相談支援専門員
8月3日	秋田県障がい者総合支援協議会・相談支援関係者 ネットワーク会議 秋田県第2庁舎	相談支援専門員
10月4日	秋田県知的障害児者生活サポート協会研修会 「『親亡き後』を考えるシンポジウム」 秋田キャッスルホテル	相談支援専門員
10月30日～31日	第18回地域生活支援推進研究会議 ホテルベルクラシック東京	相談支援専門員

6 職員の定期健康診断

期間	実施人員	検査項目	検診機関
6月6日	1	定期健康診断	ふき健診クリニック

社会福祉法人秋田県身体障害者福祉協会
コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム
平成30年度 事業実績報告

総 括

事業所指定申請手続きも順調に進み、4月1日に事業指定を受け事業を開始したところである。また、自然災害による被害、利用者における大きなトラブルや事故、職員による事故・事件もなく、今年度の事業についてはおおむね計画のとおり実施することができた。

共同生活援助では、利用者も順調に入所し、建物や設備にも特に大きな問題もなく、利用者が安全に、安心して暮らせるよう利用者へのアセスメントやモニタリングに十分時間をとり、利用者のニーズを達成するため関係者で話し合いを行い、個別支援の充実を図ったところである。

一方、短期入所は地域生活拠点機能の整備に係る体制作りが思うように進まず、当事業所での事業展開の方向性が示されるのが遅くなったため、事業の周知を徹底することが出来なかった。そのため、当初の利用者数を大幅に下回る結果となった。

また、生活支援員については概ね予定どおり確保できたところであるが、世話人が不足しており、ハローワークや福祉人材斡旋機関、ポスターによる地域住人への求人活動を行ってはいるが、まだ確保できていない状況である。

平成30年度の事業実績は次のとおりである。

1 定員及び現員の状況

(平成31年3月31日現在)

共同生活援助	利用定員	7名	／	現員	6名	(男性6名、女性0名)
短期入所	利用定員	3名	／	現員	1名	(男性1名、女性0名)

2 職員配置の状況

(平成31年3月31日現在)

① 管理者	1名
② サービス管理責任者	1名
③ 生活支援員	2名
④ 世話人	2名
⑤ 事務員	1名
⑥ 夜間支援従事者	6名(専従3名、兼務3名)

3 事業の実施状況

(1) 共同生活援助

利用者が安全で安心な日常生活を過ごすことができるよう夜間、休日における起床、就寝、食事提供、身体的支援、日常生活の相談及び助言等を行うとともに、快適な生活を過ごすことができるよう入浴、排泄及び食事等の介助及び支援を行った。

また、個別支援計画は、利用者のニーズに基づいた支援が提供できるよう作成し、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう支援し、地域との結び付きを重視するため、市町村や他の障害福祉サービスを提供する者との密接な連携にも努めた。

一時的に体験的な利用が必要と認められる者に対するサービスの提供を行った。

(2) 短期入所

利用者又はその家族の緊急時における宿泊を伴う支援を提供するため、利用者の身体その他の状況及び置かれている環境に応じた、入浴や排せつ、食事の介護等必要な支援を適切に、かつ効果的に行った。

また、地域との結び付きを重視し、市町村や他の障害福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めた。

5 給食提供の状況

- ・ 日々の食事が美味しく、満喫できるよう、家庭的な雰囲気の中で、栄養バランスや体調に配慮し、季節を感じられるよう四季の郷土食等も交え提供した。また、食前の手洗い、うがいを励行し、食中毒及び感染症予防を徹底した。
- ・ 調理者の健康管理（健康体、検便）及び衛生管理（手洗い、清潔な服装、着替え）に努め、集団食中毒及び感染症予防に万全を期するとともに、台所の衛生管理（食器・調理器具等の消毒、調理環境の清掃、整理整頓、害虫等の駆除・消毒）に努めた。

6 健康管理の状況

定期通院や内服管理の支援を行うとともに、血圧測定等を定期的に行うなど、病気の早期発見、早期治療に努めた。

7 衛生管理の状況

(1) 寝具類の交換及びシーツ交換

寝具類（枕、敷・掛布団・毛布等）の交換を年1回、シーツ・カバー類（シーツ、布団・毛布カバー）は毎週1回行い、寝具類の清潔に努めた。

(2) 居室、浴室及び便所等の清掃

利用者が自ら居室の清掃（荷物の整理整頓及び床や隅々の清掃）を行うよう支援するとともに、共通部分である便所、浴室、脱衣室、廊下、多目的ホール等の清掃をに行い、衛生管理に努めた。

(3) 入浴

入浴日を週3回とし、特に暑い日や汗をかく作業をした日には、希望によりシャワー浴も提供した。

また、快適に、そして安全に入浴ができるよう、利用者の状況にあった支援に心がけた。

8 災害事故防止等訓練の状況

① 防災計画

きめ細やかな消防・防災計画の整備と万全な備えを行い、予防に重点を置いた取り組みを実施し、設備の点検・管理や整理・整頓を徹底した。

② 避難訓練

所轄の秋田市城東消防署の指導を得て、日中・夜間（想定）も含めた総合訓練（通報、初期消火、避難、消火器操作訓練等）や、地震想定での避難訓練を行うと共に、災害を未然に予防する防火思想の普及・徹底を図った。

また、災害時や停電時における安全対策や機械器具、装置の操作手順の周知に努めた。

9 利用者の状況

(1) 共同生活援助

①委託機関ごと利用者数

市町村名	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計	比率
秋田市		4		4	66%
能代市	1			1	17%
男鹿市	1			1	17%
合計	2	4		6	100%

②年齢別の状況

市町村名	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計	比率
20歳未満		2		2	33%
20～29					
30～39					
40～49	1			1	17%
50～59					
60歳以上	1	2		3	50%
合計	2	4		6	100%
平均年齢	56	41		46	

③入所利用の経路

市町村名	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計	比率
施設	2	2		4	67%
自宅		2		2	33%
病院					
その他					
合計	2	4		6	100%

④退所利用者数と退所理由

市町村名	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計	比率
自宅					
他施設					
アパート					
その他					
合計					

⑤障害程度区分

障害程度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	A	B	合計
等級	1	1						4	6

(2) 短期入所

①委託機関ごと利用者数

市町村名	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計	比率
秋田市		6		6	86%
能代市	1			1	14%
男鹿市					
合計	1	6		7	100%

②年齢別の状況

市町村名	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計	比率
20歳未満		1		1	14%
20～29		2		2	29%
30～39		3		3	43%
40～49					
50～59					
60歳以上	1			1	14%
合計	1	6		7	100%
平均年齢	68	26		32	

③月別利用者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
述人数	0	0	0	8	0	7	2	0	0	3	0	20	40
実人数				1		1	1			1		3	7

11 職員の定期健康診断

期間	実施人員	検査項目	検診機関
6月6日 6月13日 6月19日 7月3日 11月2日 3月3日	1名 1名 1名 1名 1名 1名	35歳以下 胸部X線検査、尿検査、心電 図、採血検査他 35歳以上 生活習慣病予防検査、大腸がん検 査、乳癌、子宮がん、胃検診	ふき健診クリニック 秋田赤十字病院

12 避難訓練の実施

月日	訓練の想定	訓練内容詳細
9月20日	夜間火災想定訓練	非常通報、初期消火、避難誘導、消火器操作
3月23日	日中火災想定訓練	非常通報、初期消火、避難誘導、消火器操作

13 会議・研修の実施

期間	内容	出席者

月1回(4月～1月)	地域生活支援拠点作業部会 秋田市役所	管理者、生活支援員
7月4日	救急救命講習 秋田ワークセンター	サービス管理責任者
9月10日～11日	秋田県強度行動障害支援者養成研修・基礎研修 中央地区老人総合エリア	生活支援員
11月21日	サビ管と相談支援員による研修会 秋田市役所	サービス管理責任者
2月22日	秋田市地域保健・福祉活動推進事業学び逢いプロジェクト「親亡き後の問題」を考えよう 秋田県ゆとり生活創造センター遊学舎	サービス管理責任者